

## 総合ゼミ報告——今年度（2020年度）の実施状況

村瀬優花 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程（音楽学）

### 1. はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）は週に一度行われ、音楽学コースに属する学生と教員が集まり、それぞれの研究発表やそれに関する意見交換をする場である。2006年度に開設された「音楽学コロキウム」（学生と教員が同じ立場で発表し意見を交換するオープンな場を目的として開設）が母体となっており、2008年度に「音楽学研究総合ゼミ」としてカリキュラムに組み込まれた。音楽学コースの学部生は必修の授業である。

音楽学コースの学生や教員の研究発表のほかに、外部の研究者や講師のレクチャーも行われる。例年、さまざまな分野の専門家にご協力いただき、音楽学だけでなく幅広い内容の講座が開かれている。しかしながら本年度は新型コロナウイルスの影響により、開講回数が少なくなってしまった。

以下に、本年度の総合ゼミで行われた学生による研究発表以外の講座について報告する。

### 2. 2020年度の総合ゼミにおいて行われた講座

#### ■ 11月5日（木）

井上さつき先生（愛知県立芸術大学教授・音楽学）

「1920年代の日本楽器製造（現ヤマハ）について——<sup>えんざぶろう</sup>箕輪焉三郎文書を通して——」

#### ■ 11月19日（木）

小林英樹先生（愛知県立芸術大学名誉教授・美術学部油画）

「『セザンヌが求め続けたもの』：静止画像に込められた過去、現在、未来」

### 3. おわりに

上記の講座のほか、学生による研究発表が行われた（学部1年：1回、4年：2回、博士前期課程2年：1回）。

本年度の総合ゼミは、前期はほぼ開講されず、後期もわずか4回の開講となってしまった。このような状況にもかかわらず、講演を行っていただいたゲストスピーカーの小林英樹先生には感謝を申し上げる。音楽学コース一同、一刻も早く新型コロナウイルスが終息し、例年どおり充実した講座が開講されるようになることを願う。